

今週（7月8日から7月12日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み最終週であったものの、資金調達意欲が非常に弱く、レートは低位で推移した。日銀当座預金残高は、406兆円台から始まり、週後半にかけて400兆円程度まで減少した。週初8日は、短国発行日等の要因があったものの、取り手の資金調達意欲は弱く、レートは下限域である▲0.086～▲0.08%中心の取引で始まった。10日には、短国・5年債の発行日等の要因があったが、地合いは変わらず、レートは下限域で資金運用希望が残る状況となった。積み最終日の12日も資金調達意欲は弱く、閑散な取引状況となっていた。無担保コールO/N物の取引レートは、地銀・証券業態は▲0.086～▲0.05%の幅広いレンジで、都銀・信託業態は▲0.086～▲0.08%の出合いが見られた。無担保コールO/N加重平均レートは、概ね▲0.07%台半ばで推移した。ターム物に関しては、ビッドはほとんど見られず、週初に7/16エンドのショートターム物で、散発的に▲0.07～▲0.065%の出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは12日に2W物・15,000億円がオファーされ、655億円（期落ち額655億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.120～▲0.085%のレンジでの取引となった。週初は投資家の資金調達意欲が限定的であったものの、積み最終にかけては投資家の資金調達意欲も戻り、レートは上昇基調での推移となった。

SCは個別銘柄では5y133～139、10y334～354、20y164～168、30y59～62、40y11～12など、カレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、需給環境にやや改善の兆しも見られる中、3M物は▲0.140%近辺での出合いと底堅く推移した。一方、1Y物については、海外中銀の利下げ期待の後退で債券相場全体が軟調な展開となる中、小甘く推移した。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.185%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1961%、按分落札利回▲0.1902%と、年末越えの銘柄ということで海外勢の買いも入ったためか、強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.228～▲0.225%出合いと強含みで推移した。

11日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.009%、按分落札利回較差+0.005%と、需給環境に改善が見られる落ち着いた結果となった。

12日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.160～▲0.155%で出合う展開となったものの、応札額が9兆円台と少なく、平均落札利回▲0.1463%、按分落札利回▲0.1363%とWI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.139～▲0.136%出合いと按分レート近辺で推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、四半期明けの先週ほどの勢いはないものの、一般事業法人を中心に発行を伸ばす展開となった。週間総額は、5,300億円程度の償還に対して、1兆1,200億円程度の発行であった。発行の内訳をみると、業態別では、商社等の卸売が約3割を占めるなど全体を牽引しており、建設やノンバンクはそれぞれ約1割程度を占めていた。期間別に見ると、9月末までの期内物が中心で、期越え物は限定的であった。市場残高については、先週3日に20兆円台を回復して以来、残高を積み増しており、12日には21兆円台に達する見込みとなっている。ノンバンクが引き続き10兆円を越える水準を維持しており、一般事業法人も8兆円を越す水準となっていた。残高は増加しているものの、発行レートは0%付近のレンジが中心となっている。特に残高の少ない希少銘柄はマイナス圏が続いており、引き続き投資家の旺盛な買い意欲が見られた。

9日には、7月最初のオペとなるCP等買入オペが2,000億円オファーされた。按分レート▲0.003%、平均落札レート▲0.002%となり、応札倍率も2.25倍程度と控え目で、狭いレンジに参加者の目線が集中する結果となった。買入額が2,000億円と少なかったことから、ディーラーの期待感が薄く、発行量の多い銘柄の入替のための最低限の応札が中心であったためと推察される。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/8 (月)	21,534.35	△ 0.155	108.52	△ 0.075	△ 0.113	4,061,000
7/9 (火)	21,565.15	△ 0.145	108.86	△ 0.076	△ 0.098	4,060,900
7/10 (水)	21,533.48	△ 0.130	108.90	△ 0.077	△ 0.105	4,034,200
7/11 (木)	21,643.53	△ 0.144	108.14	△ 0.076	△ 0.110	4,027,600
7/12 (金)	21,685.90	△ 0.120	108.40	△ 0.076	△ 0.097	4,006,000

来週（7月16日から7月19日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/15 (月)	海の日				
7/16 (火)	5月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				6月の米小売売上高 5月の米企業在庫 6月の米鉱工業生産・設備稼働率
7/17 (水)		20Y 9,000億円 7/18発行	交付税借入 10,500億円 7/25借入		米ページブック 6月の米住宅着工件数 6月のユーロ圏消費者物価指数改定値 6月の英消費者物価指数
7/18 (木)	6月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 19,000億円 7/22発行			
7/19 (金)	6月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 42,700億円 7/22発行	流動性供給 4,000億円 7/22発行	交付税借入 10,500億円 7/30借入	7月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/15 (月)	海の日								
7/16 (火)	800	5,200	6,000	国債買入 全店共通 CP買入	▲ 700 ▲ 700	10,300 700	9,600	15,600	TB3M発行▲43300償還40700 2Y償還7500 個人向け3・5・10Y発行▲4400 個人向け償還1000
7/17 (水)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	
7/18 (木)	0	▲ 6,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	20Y発行▲9000
7/19 (金)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	交付税借入▲10500償還10500
週間合計	800	2,200	3,000	—	▲ 1,400	11,000	9,600	12,600	

7/16は日銀予想、7/17以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新しい積み期間となる。今積み期間が全般的にレート低位で推移していたこともあって、当座預金は減少しているものの、レートは低めの目線でのスタートになると予想する。レポ市場は、積みの序盤ではあるが投資家の売りも継続すると見込まれ、足元GCIは、▲0.100～▲0.070%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、18日に1Y物、19日に3M物の入札が実施予定となっており、需給環境のレート水準への影響など、市場動向が注目される。CP市場は、月の後半に入り、一般事業法人の発行銘柄に更に広がりが見られることが期待される。

主要なイベントとしては、国内では19日に6月の全国CPI、海外では17日にページブック、6月の英国CPIが予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入